（様式２の１の２）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **①－１　欧文原著**

（主要業績（別刷提出論文）の番号に○印を付けてください。投稿中で掲載未確定のものは除いてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，学協会誌名，発表年（西暦），巻，最初と最後のページ，直近のインパクトファクター（IF）値の順で記載すること。例）1.Matsumiya T, Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K : Antiviral signaling through retinoic acid-inducible gene-I-likereceptors. Arch Immunol Ther Exp 2011; 59: 41-48.（IF=0.000） |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の１の３）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **①－２　和文原著**

（主要業績（別刷提出論文）の番号に○印を付けてください。投稿中で掲載未確定のものは除いてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，学協会誌名，発表年（西暦），巻，最初と最後のページの順で記載すること。例）1.梅田　孝，中路重之，益子俊志，壇上和真，鈴木雅博，菅原和夫：大学ラグビー選手の夏季合宿中の身体的，精神的疲労の出現とその関連について. 弘前医学　2002; 54: 71-77. |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の２の１）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **②－１　欧文症例報告**

（主要業績（別刷提出論文）の番号に○印を付けてください。投稿中で掲載未確定のものは除いてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，学協会誌名，発表年（西暦），巻，最初と最後のページ，直近のインパクトファクター（IF）値の順で記載すること。 |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の２の２）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **②－２　和文症例報告**

（主要業績（別刷提出論文）の番号に○印を付けてください。投稿中で掲載未確定のものは除いてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，雑誌名，発表年（西暦），巻，最初と最後のページの順で記載すること。 |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の３の１）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **③－１　欧文総説**

（主要業績（別刷提出論文）の番号に○印を付けてください。投稿中で掲載未確定のものは除いてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，学協会誌名，発表年（西暦），巻，最初と最後のページ，直近のインパクトファクター（IF）値の順で記載すること。 |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の３の２）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **③－２　和文総説**

（提出論文の番号に○印を付けてください。投稿中で掲載未確定のものは除いてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，学協会誌名，発表年（西暦），巻，最初と最後のページの順で記載すること。 |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の４）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **④　その他**

（主要業績（別刷提出論文）の番号に○印を付けてください。投稿中で掲載未確定のものは除いてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，雑誌名，発表年（西暦），巻，最初と最後のページの順で記載すること。 |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の５）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **⑤　著　書**

（主要業績（別刷提出論文）の番号に○印を付けてください。）

|  |
| --- |
| 著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），書名，発行社名，発行地名，版数，発表年（西暦）の順で記載すること。編著の場合は，著者名（掲載順に全員，本人にアンダーライン），論文名，書名，編者名，発行社名，発行地名，版数，発表年（西暦），最初と最後のページの順で記載すること。 例）1. 廣田和美.意識下開頭術. 松木明知，石原弘規，坂井哲博編．周術期におけるBISモニターの臨床応用. 改訂第２版. 東京:克誠堂出版；2002,p.57-8. 2. Sakai T, Hashimoto H, Furukawa K, Motomura S, Matsuki A. Nuclear-кB activation during anesthesia and surgery. In:Kaneko S, Motomura S, Tateishi T, Kondo T, Furukawa K, editors. Pharmacogenetics- Tailor-Made Pharmacotherapy. Tokyo:Elsevier Science B.V.;2002.p.127-30. 　　 3. 加藤博之、ER流研修指導医（秘）心得４７．東京：羊土社；2006. |
|
|
|
|
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の６の１）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **⑥－１　学会発表（国内学会）**

（特別講演，宿題報告，シンポジウム，パネルディスカッション，ワークショップ，ラウンドテーブルディスカッションなどをこの順に記入してください（一般講演は記入しないこと）。）

|  |
| --- |
| 発表者名（記載順に全員，本人にアンダーライン），演題名，学会名，発表年（西暦）の順で記載すること。 |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の６の２）

**研　　　究　　　実　　　績**

 **⑥－２　学会発表（国際学会）**

（特別講演，シンポジウム，パネルディスカッション，ワークショップ，ラウンドテーブルディスカッション，一般講演の順に記入してください。）

|  |
| --- |
| 発表者名（記載順に全員，本人にアンダーライン），演題名，学会名，都市名，発表年（西暦）の順で記載すること。 |
|  |

 （注）記入しきれない場合は，様式２の７により記入のこと。

（様式２の７）

**研　　　究　　　実　　　績**

|  |
| --- |
|  |